

長島町の医療の現状

長島町国民健康保険平尾診療所 三角 芳文（鹿児島県）

長島町は、鹿児島県の最北端、熊本県との県境に位置し、長島本島・伊唐島（本島と架橋）・諸浦島（本島と架橋）・獅子島で成り立ち、昭和四十九年長島本島と薩摩半島の阿久根市が黒之瀬戸大橋（全長五百二m）で架橋され、離島ではなくなりました。平成十八年三月、旧東町と旧長島町が合併し長島町となり、人口一万千七百三十四人（平成二十二年二月現在）うち六十五歳以上が三一・五％、七十五歳以上が二五・七％と高齢化が進んでいます。漁業（ぶりの養殖など）・農業（赤土馬鈴薯、さつまいもなど）・焼酎製造（島美人など）などが主な産業です。

私は、平成十五年九月より長島本

島の北側にある平尾診療所（無床）に勤務しています。前述した昭和四十九年の架橋で医療環境も大きく変わり、島の医療機関にも気軽に受診できるようになっています。平成二十二年三月、町立無床診療所の一カ所が閉鎖、民間の有床診療所が無床になり、現在町内の医療機関は有床診療所が二（うち民間一）、無床診療所が三（うち民間二）の計五施設となりました。長島町内には二次医療機関はなく、隣接する阿久根市に出水郡医師会立阿久根市民病院（車で約四十分）と出水市立出水総合医療センター（車で約五十分）があります。勤務医の減少は当地区でも深刻で、産婦人科・耳鼻咽喉科・呼吸器科の閉鎖や内科医の減少が続

いていますが、ほとんどの救急患者は両病院で対応していただいております。三年前より両病院の当直医の負担軽減のため、午後八～十一時までの時間外診療を医師会員が交代で行うことになりました。私も二カ月に一回参加しています。納得できる理由で受診される方が多いのですが、いわゆるコンビニ受診の方やかかりつけ医への不満を延々と話される方などもあり、当直医の先生方の苦勞を痛感いたします。長島町の休日当番医は、諸事情により町内四医療機関で順番に担当しています。二次医療機関の負担を少しでも減らせればと心がけていますが、そのようになっていないのが現状です。両病院の存在がなければ、町内の医療水準は低下し、身体的にも経済的にも負担が増大することは明白で、住民の方々にも診療連携の大切さを日常診療で説明していきたいと考えています。以前経験した離島・へき地に比べると医療環境としては恵まれていると思いますが、当地区でも医師不足は深刻で、今後も維持できるか不安を感じています。

全国的な傾向のようですが、当地区でも保険証がなかったり、経済的

理由で受診が遅れる方、アルコール依存症や家庭内暴力を疑わせる事例を最近よく経験します。診療所だけでは解決できない問題が多く、対応に困っている状況です。また、ほとんどの高齢者は住みなれた長島で一生を終えたいという希望を持っています。独居や高齢者夫婦だけの世帯が多く、疾病や加齢により精神・身体的機能が低下し日常生活の維持が困難となると、町内の施設は満床のことが多く、本人の意志とは関係なく町外に出ていかなければいけない状況です。架橋のおかげで多少の歯止めはかかっていますが、過疎化・高齢化が進んでいく長島町では、医療の維持、二次医療機関や福祉施設との連携はもちろん、少しでも長く故郷で生活していけるための対策が早急な課題だと思っています。

長島町での診療が七年目となり、私の中では最も長く勤務する診療所となりました。診療所だけでは解決できない問題を少なからず経験しました。今後もほかの医療機関や保健福祉施設、行政との連携を図りながら、当地区の地域医療の維持に微力ながら努力したいと考えています。